

鳩山町太陽光発電施設説明会等結果報告書

鳩山町長 宛て

報告者 住所 神奈川県大和市中央林間3-7-13 2F  
株式会社ザ・ウェイ  
氏名 代表取締役 財津 彰裕  
(法人にあっては主たる事務所の所在地、名称及び)  
(電話番号 046-271-0700 )

鳩山町自然環境と景観の保全に配慮した太陽光発電設備の適正な設置及び管理に関する  
条例第12条第7項の規定により、関係書類を添えて下記のとおり報告します。

記

1 発電施設の名称	竹本発電所
2 設置場所	鳩山町 大字竹本字新井226 大字竹本字能登281 大字竹本字能登283
3 実施方法	<input type="checkbox"/> 説明会 <input checked="" type="checkbox"/> その他 ( 回覧による配布 )
4 実施日時	年 月 日 ( ) 時 ~ 時
5 実施場所	回覧による配布
6 事業者	住所 神奈川県大和市中央林間3-7-13 2F 氏名 株式会社ザ・ウェイ 代表取締役 財津 彰裕 電話 046-271-0700
7 説明者	住所 神奈川県大和市中央林間3-7-13 2F 氏名 株式会社ザ・ウェイ 担当: 電話 046-271-0700
8 説明会参加者	説明対象者 ( 竹本地区の方々 ) 参加者人数 ( )
9 協議相手方名	竹本地区の住民の方々、近隣の方々
10 要望・意見等の内容及びその対応等	別紙のとおり

添付書類

説明概要、説明会等において配付又は使用した資料、隣接住民等からの意見とその対応策についてまとめた書類等を添付してください。

鳩山町竹本発電所について質問事項  
一町民です。以下ご回答ください。

## ■事業地 281 番地について

### 止水盛土

1. 計算書では1時間降雨強度 65mm/hr(別資料では 57mm)としているが、現地は平地ではない。斜面であり、平地の基準は該当できるか疑問がある。

パネル部分の係数は住宅などの屋根扱いとして 0.9 にて計算されておりますが、実際パネル下はアスファルトやコンクリートなどではなく、現状の土となっており住宅などと違い、パネル下も通常の土壌と同じく自然浸透していく為、実際にはこの数値以上の浸透能力となります。また土壌部分も、緑化していきますので、裸地よりも浸透能力はさらに向上します。

トレンチ 1 時間当たり処理量 = 32.11m<sup>3</sup>

1 時間当たり流出量 26.09m<sup>3</sup>

としているが、1時間降雨強度 100mm では傾斜地ではトレンチより溢れ、止水盛土も崩壊する可能性が高い。町内の同様な設備で止水盛土崩壊に伴う蓄水の一挙土砂流出が起きている。

止水盛土の手前に該当地を横断する様に浸透トレンチを設け、万が一浸透トレンチがフローした場合でも止水盛土から浸透枡にて自然浸透させる設計になっております。

先日の豪雨でも弊社事業地は地すべり事案などもございませんし、現在設置してありますトレンチも崩壊しておりませんので、今後も崩壊する可能性は無いと思われます。

2. 土地の北西側コンクリート擁壁を 10 メートル延長し、さらに 23m の止水盛土を設置することで域外への流出を完全に止める、としているが、擁壁と止水盛土の位置配置をわかりやすく明示してほしい。止水盛土の高さは 50cm と理解していいか。

東側の浸透池の処理量/hr はどれほどか。

此方は事業地 226 番地の事かと思っておりますので、止水盛土部分がカラーの図面を別途添付させていただきます。こちらの止水盛土は、域外への流出抑制の為ではなく、弊社事業地内に雨水が流入する事を抑制する為のものになります。高さは 30cm となり、浸透池単体での処理量は 10.11 m<sup>3</sup>/h となります。

3. 雨水処理計画の全体で、自然浸透処理であるが、最近の事例では 3 時間雨量 263mm、6 時間当たり 360mm が発生している。豪雨は 1 時間だけで終了せず、もっと長時間続くこともある。

現地自然浸透土壌の厚さ(深度)はどれほどか。もし、土壌厚が大きくなると、容易に浸透水が飽和して、能力が落ちる点についてはどうか。

鳩山町は土壌厚が小さく、すぐ岩盤があることが、7/12 豪雨で町内各地 100 力所以上で土砂地すべり流出が発生した一因であると思われる。

先日の豪雨でも、現状自然のまま雨水対策をしておりませんが、弊社事業地での地すべり事案などは一切ございません。工事の方も伐根などの土地の形質に伴う変更などは一切しない事としており、



今後雨水の浸透施設を設ける事により、浸透量が増し下流への雨水流出が抑制される事になります。

### ■事業地 283, 281 番地

1. 豪雨において、両方の事業地から浸透量を超えて域外に流れ出た雨水が災害の規模をさらに大きくする可能性が高い。この開発がなくとも、滑動崩落、土砂災害が発生するかもしれないが、この開発により土砂災害をより大きくする可能性がある。調整池などの対策が、経費の都合で選択できないのであれば、ここに立地すべきでないと思われる。

先日の過去1番と言われる豪雨でも事業地で地すべりなどの災害は起きておりません。調整池などで1か所に大量に雨水を貯水するよりも、安全な浸透施設を複数個所設置する事により、下流への雨水流出を抑制し災害防止の観点からも現状より安全になる工事を行います。

2. トレンチの浸透能力は、経年劣化が予想されるが、メンテナンスはどうするのか。立地が急斜面であることから、架台設置に対する地盤調査で、地盤強度はどうであったか。同時に土壌の深度がどれほどであったか。

トレンチは目詰まりしない様に、透水シートにて碎石層を覆いますので土で埋まってしまう事はありません。また定期的に巡回点検を致します。立地は急斜面ではありませんので、万が一透水シートの破損などがあれば、交換する事で対応致します。また地盤調査ですが、事業計画届出書を提出したのちでなければ、条例により設置に関わるすべての工事が出来ません。届出書を提出したのちに、当然ですが引き抜き強度を含め地盤の調査を行いません。

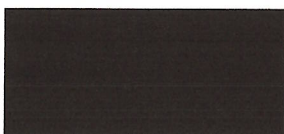
3. 「トレンチによって、地下水位の上昇により法面の安定性低下など、逆効果となる場合もあり得ること、浸透施設は土砂の目詰まりなどによって機能低下を生じることがあり、適正な維持管理を行う必要があるなど、計画に当っては十分留意すること」この記述が資源エネルギー庁にあるが、不安を払拭できない。

土砂が碎石層に目詰まりし機能低下を生じない様、浸透トレンチは透水シートにてすべて覆いますので、浸透施設が土砂で目詰まりする事はございません。

### ■鳩山町太陽光発電条例について

条例では、鳩山町全域を抑制地域としているが、これは鳩山町民にとって、森林が町の資源であり財産である(第6次総合計画)としていおり、森林を立地とする開発を歓迎しないことによる。これについて、条例の趣旨を尊重しない理由はなにか。

条例に基づいて法令順守にて事業を進めて参ります。事業終了後は、現状回復を致します。今後とも宜しくお願い致します。



匿名希望の方より  
お電話にてお問合せ

完成時期はいつ頃の予定でしょうか？

現状あくまで予定となりますが 2022 年 12 月末頃～2023 年 1 月中旬になると思われま  
す。